慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	北平だより
Sub Title	
Author	宮島, 貞亮(Miyajima, Teisuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.4 (1934. 12) ,p.205(787)- 212(794)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200-0205

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

北平だより

宮島貞亮

拜復、御芳翰難有拜誦仕りました。文祉愈々御嘉祥賀し奉ります。

八月二十七日は孔子誕辰紀念につき、當地の孔子廟に參り孔子の人格を偲びました。大公報その他の新聞は孔子の記事を以て滿たされ、特に社論は孔子の學說を述べ、その人格及び遺德を稱へてをります。張繼の如き國民黨の幹部すらも儒敎の復興を唱へ、國民一般も漸く空虛な三民主義に倦怠を覺えをるやう見受けられます。

最近刊行された索引の中敬意を表するに足るものは、上海の開明書店發行の十三經索引で御座います。(五弗五十仙、日本で七圓位)此の書につき大公報は圖書副刊に於て紹介致しました故此處にはその紹介は省きます。此の外最近索引、引得の類が大變多く刊行され、その名を列擧しますと、白虎通引得、歷代同姓名錄引得、考古質疑引得、讀史年表附引得、儀禮引得、附鄭注及賈疏引書引得、四庫全書總目及未收書目引得、諸氏然疑校訂附引得、明代勅撰書考附引得、全上古三代秦漢三國六朝文作者引得、三十三種淸代傳記綜合引得、藝文志二十種綜合引得、佛藏志二十種綜合引得、佛藏子目引得、容齋隨筆五集綜合引得、日本期刊三十八種中東方學論文篇目附引得、世說新語引得、蘇氏演義引得、淸畫家輯佚三種附引得、太平廣記引得、水經注引得等が燕大引得編纂處出版であり、此の外室名索引が再版され、新らしく國立北平師範大學、國立北平圖書館から中國地學論文索引があらはれました。それから序に開明書店の豫約募集中の二十五史について一寸のべたいとおもひます。開明版二十五史は從來の二十四史に比べると活字が小さくて見にくいのですが、何といつても柯先生の新元史が新らしく附加へられたといふ事や、參考書目や人名索引がついてゐる事や、豫約賃が一時拂四十元、一ケ月拂五十元(每月五元)といふ事が特色です。

又中央研究院歷史語言研究所から中國考古報告集の一が出ましたし、河南省立博物館からも多くの立派な本が出ました。此處には省きますが、必要の時は御遠慮なく御下命の程お願ひいたします。

又梁園東は Bretschneider の Mediaeval Reserches from Eastern Asiatic Source の一部分を譯註し「西遼史」として商務印書館から出版してゐます。(二角)、それから續四部叢刊の中には中々善本が少くありません。四庫全書珍本部集と共に(兩方共商務印書館)圖書館に備へるように御盡力下さい。又最近影印本が多く刊行され少からず學界を裨益いたしてをります。

かの倭寇文獻汪大猷の正氣堂集明刊本が今回影印本としてあらはれました。該集は淸版が東洋文庫內藤田文庫に一部あるのみにて、その中の洗海近事の鈔本は學習院圖書館及び內閣文庫に夫々一本あるばかりで御座います。小生去年暑中休暇を利用し內閣文

庫に通ひ洗海近事を鈔寫したことがありますが今より思へば無駄骨を折つた事になりました。

九月十日北平研究院五周年紀念が擧行され、該院史學研究會考古組の最近陝西省に於て發掘せし各種の古物を展覽に供しました。因に該研究院は北平學術機關として中央研究院歷史語言研究所につぎ重要なもので、目下總務部、出版部、海外部、天算部、理化部、生物部、人地部、羣治部、文藝部、國學部の十部に分れてをりますが、出版物としては中國地名大辭典、北平附近地圖が知られてゐるにすぎず、之を安陽發掘報告、明清史料、金石書錄目、燉煌瑣瑣上輯、中輯、猺歌記音、漢金文錄等幾多の刊行物を出した語言研究所に比べれば一沫の寂しさは免れませんけれど、將來の活躍は期待してよいと存ぜられます。

各大學中、燕京大學の活躍ぶりは恐ろしい位です。金があるばかりでなくやり方もなかなか上手で御座います。本年六月には明代倭寇考略（陳懋恒、燕京學報專號之六）が出ました。陳はまだ若い人で不充分な點も多々ありますが、自分が述べたいと思ふ事を先に述べられたので一寸落膽いたしました。倭寇の事でまとまつた本が出たのは初めてです。去年十二月にも十年以上も倭寇を研究してゐる黎光明が燕京學報專號之四として「嘉靖禦倭江浙主客軍考」を出しました。倭寇研究では柳詒徵が權威者ですが、若い人等も段々此の方面を研究してきましたね。只此等の若い人は見なければならない貴重な史料を知らないやうです。ですからいくらか慰められます。

その外燕京大學からは、武英殿彝器圖錄、中國明器、唐代長安與西域文明、明史纂修考、遼史源流考與遼史初校、古籀餘論、尙書駢枝、張氏吉金貞石錄、馬哥孛羅遊記第一册、寶蘊樓彝器圖錄、歷代石經考、王荆公年譜考略蔡上翔著附年譜推論、碑傳集補、殷契卜辭等が出てをります。當地學者が日本の學界に對し衷心より敬意を表し、且常に注目を怠らざるものは僅に東洋史に關する論文あるのみで御座います。然るに北平圖書館を初め諸大學に於て「史學」の偉容に接すること相叶はず寔に遺憾の至りに堪へません。

小生目下いろ〳〵の學者と面晤いたしてをります。九月十四日禮司胡同に參り、瑞景蘇先生にお會ひいたしました。七十六歳で楊雪橋先生よりも六歳多く耳も遠く大分弱つてをられます。楊先生と同じく進士で經學が得意です。新元史を著はした柯劭忞先生は已に故人となられましたが、當地に進士が八十七歳の陳寶琛先生（宣統帝の師）を筆頭に二十八人も居られます。毎年此等の進士が進士の試驗に登第された順に列び寫眞を撮ります。第一陳先生、第二柯先生といふ風に並び撮られたのですが、年々減少し將來皆無の時が來るかと思ふと寂しさを覺えます。

瑞先生を辭し、故宮博物院へ參り、馬叔平（馬衡）氏に面會を求めましたが不在でしたから、その近くの馬叔平氏の兄に當つてゐる馬紉漁氏を訪問致しましたが、母の喪に服されてゐるので面晤する事が出來ませんでした。馬紉漁氏は經學を專門とされ、音韻の學にも精通されてゐるさうです。それから中丸君と北平圖書館へ行き、孟桂良君の案内にて同館を參觀いたしました。同館は内容も外觀も實に立派なものです。善本書庫、四庫全書書庫、寫

經室等を參觀致しましたが、善本書庫、四庫全書書庫が一番興味がありました。目下善本圖書として宋刊本一百二十九部二千一百十六册、宋寫本二部五十一册、飜宋本十三部一百零三册、仿宋本二部三十四册、影宋本十五部九十三册、校宋本五十部三百十三册、元刊本二百六十一部三千九百十五册、元寫本一部四册、翻元本十二部一百八十六册、仿元本四部十八册、影元本四十四册、明刊本四百五十七部四千二百九十二册、舊寫本四百四十一部一萬零六百三十六册、稿本四十二部三百八十七册等が保管されてゐます。

明版の皇明馭倭錄、蒼霞草等を手にした時は愉快でした。圖書館について申上げたい事は山程ありますが、割愛いたします。

圖書館を參觀した后傅增湘先生の御宅を訪ねました。先生は四川人で當年六十三四歳、進士で上海の董康先生と共に目錄學者として知られてをり、目下教育總長の要職に就かれてゐます。又先生は藏書家として有名で宋版も可成り多く持つてをられます。先生から明代の史籍に就いて有益なお話を承り、稀覯書も拜見させて頂きました。北平圖書館にある皇明馭倭錄は先生の盡力で廣東方面から北平圖書館が一千元で買ふ事が出來たと先生は話されました。此の本は日本では市村博士のみが藏されてゐる筈ですが、先生のは清版でせうか明版でせうか、兎に角此の本は何れの版にせよ絶少です。小生は暇を見て寫すつもりです。まだ先生に就いて申し上げたい事が澤山ありますがこれ丈けにしておきます。

終りに今度出ました「遼海叢書」に就いて申し上げます。此の著者は先日お送り申上げました渤海國史長編（今年五月刊行）を著はした金毓紱氏です。此の人は滿洲遼陽の人で、目下奉天省參事官兼國立圖書館副館長で、先に遼東文獻徵略を著はし、篤學の士として知られるようになりました。五集五十册甲種日本金八十圓乙種六十圓です。何卒慶應の圖書館で買ふように御盡力下さい。尙御報告申し上げたい事は山のやうにありますが、餘り申し上げますと歸朝いたしました時お話し申し上げる種がなくなりますから今日はこれだけにして擱筆いたします。不備

昭和九年九月十四日

扨而其後故宮博物院長馬叔平（馬衡）副院長で、かの傅增湘氏と共に版本學の權威である徐森玉氏、北京大學明淸史の敎授孟森氏、朱子學者でかの諸橋博士の老師江澣氏（七十八歳）、王闓運の弟子でかの張廉卿先生をして餘りにも博學を嘆ぜしめた王樹枏氏（八十四歳、進士なるも翰林院學士でありません、詩文に長じてゐます）等種々な學者と歡談し大いに得る所がありました。その事に就いて近日御報告いたします。此等の學者は中々書をかいてくれませんが、私は幸にも書いて貰ふ事が出來ました。

又先日孟森敎授の案内で明淸史料整理第一室を見學いたしましたが、明淸史料整理完成の日遠きを思はしむるにすぎませんでした。金がない事が第一の原因でせう。明淸史ではかの朱希祖氏が南京に去つた今日、北京では謝國楨氏が大活躍をしてゐます。最近晩明史籍考、淸開國史料考等を著し、又金陵學報にも明淸史料研究の一文を揭載してゐます。南京の柳詒徵、朱希祖、北平の孟森、謝國楨等の諸氏は明淸史の研究者として著はれてゐます。殊に柳詒徵氏は倭寇研究の第一人者です。最近影印本として著はれた正氣堂集、江峰漫稿、山海漫談、鄭開陽雜著、嘉靖東南平倭通

錄等は倭寇研究者の一讀すべき史籍ですが、此等の書に寄せた柳詒徵氏の跋文は見逃す事の出來ないものです。山海漫談は餘り知られてゐないやうですが、正氣堂集の俞大猷、天一閣主人范欽と同樣に倭寇を禦ぐに功があつたばかりでなく、文名一代に高かつた明の任環の著はしたものです。

終りに錢稻孫先生について一言したいと思ひます。先生には度々お會ひいたし種々御世話になつてゐます。日本の留學生で先生のお世話にならないものはないでせう。先生は慶應の幼稚舍出身で淸楚な日本語を話されます。目下淸華大學教授で日本史及日本文學を講ぜられてゐます。又源氏物語の漢譯をされてゐる篤學者です。日本の書籍を多く藏されてをり、中國人の日本研究熱をどの位刺戟されてゐるかわかりません。又「史學」の愛讀者である事筆も特すべきことです。

梁啓超の弟の梁廷燦が編した歷代名人生卒年表（民國二十二年七月初版、商務印書館二元）は便利なものです。これは錢大昕の疑年錄、吳子修の續錄、錢解𦍒の補錄、陸心源の三續錄、張公束の賡錄、張季易の彙編等を參考したもので、非常に多くの人名が採用されてゐます。

（十月四日）

傅增湘先生は沅叔と號し已に述べましたやうに、目錄學、版本學の大家であります。また善本の藏書家として知られてをり、先生が校勘した宋元明の善本、鈔本、祕笈は數萬卷を下りません。又先生の善本も影印本として世に著はれる事になりました。著に秦遊日錄、雙鑑樓藏書續記等があり、最近藏園羣書題記の第四集が刊行されました。

瑞洵先生とは特別親しくしてゐますが、唯恨む所は小生學力不足の點です。先生は今年擧人になられてから六十年になります。嘗ては大臣にまでなつた人ですが、今は貧に安んじ賤を守り、好爵を己が榮とせず、實に窮迫した生活をされてゐます。其後王樹枏、江澣等の碩學鴻儒、馬衡、徐鴻寶、孟森、謝國楨、錢稻孫、楊樹達、溥儒、張孝移等の諸學者に會ひました。

馬衡氏は叔平と號し故宮博物院長の重職についてをられます。目下北京大學史學系に金石學を講じてゐます。徐鴻寶氏は森玉と號し、傅增湘先生と同樣に目錄學、版本學の大家で、故宮博物院祕書長です。又北平圖書館に於て重要な仕事をされてゐます。孟森氏は北京大學教授で、史學系に於て明淸史の講義をされてをり、明淸史料整理にも當つてをられます。最近北平圖書館菜に、淸史傳目通檢、文館詞林校記を發表し、その蘊蓄の一端を示されてをります。

南京に明史の專門として柳詒徵、朱希祖の兩氏があり、北平には明淸史の學者として孟森、謝國楨の兩氏及び別格として吳廷燮氏（七十歲）がをられます。

謝國楨氏は剛主と號し北平圖書館に勤務されてゐます。最近の著に晚明史籍考、淸開國史料考、明淸之際黨社運動考等があり、金陵學報に明淸史料を寄稿してゐます。謝氏はまだ三十代の人ですが、大公報の圖書副刊に於て常に新刊紹介に力められてゐる篤學ぶりには佩服させられます。

吳廷燮氏は七十歲、明淸史に精通されてゐます。嘗て淸史館に於て修史に從事された學者で氏の稿本は非常に多いさうです。

序に清史稿の事に就いて一言いたします。清史稿は今、發賣禁止になつてゐますが、清史稿の藝文志と列傳の一部(光宣列傳)が發賣されてゐます。

楊樹達氏は遇夫と號し、清華大學教授、日本に留學された事があります。國文法を講じてをられ、最近漢字の聲的系統の著があり、又北平北海圖書館月刊に積微居讀書記、北平圖書館栞に讀王氏漢書雜志獻疑を發表された事があります。

溥儒氏は心畬と號し書、畫、詩に巧みにして、今、輔仁大學の講師をされてゐます。此の人は恭親王の令弟に當る方です。

張孝移氏は曾國藩の祕書長を勤め、又近世書道の神と云はれた武昌張廉卿先生の令孫に當る人です。日本に留學した事もあり、前檢事總長、今、北平大學教授、刑法を講義されてゐます。

王樹枏先生は號を晋卿といひ、八十四歳、進士で詩文に非常に巧みな人、湘軍志を著はしたかの王闓運の弟子、張廉卿先生をして餘りに博學と嘆ぜしめた事がある程の鴻儒です。

江澣先生は七十八歳、朱子學者で諸橋博士の老師、故宮博物院の理事を力められた事があります。

終りに北京大學の(東洋史に關するもの)史學系の講座、講師に就いて一言いたします。何れ詳しいことは中丸君が御報告する事になつてゐます。內容はどういふものか知りませんが中々賑やかです。

中國通史(錢穆)、中國史料目錄學(趙萬里—北平圖書館に勤めてをられ、此の方面で大活躍されてゐます)中國上古史(錢穆)、魏晉南北朝史(蒙文通)、宋史(蒙文通)、遼金元史(姚士鰲)、明清史(孟森)、中國上古單題研究(傅斯年—中央研究院歷史語言語研究所の所長、先日訪ねましたが不在でした。)東北史地(馮家昇)、金石學(馬衡)、中國政治制度史(錢穆)、中國史學史(蒙文通)、明清之際西學東漸史(向達)、近四十年中國史學上之新發現(向達—此の人は最近中々活躍されてゐます。此は面白い講義でせう。所謂燉煌學、佛教美術遺跡、西夏及遼金元時代の新史料、明清檔案等最近は大いに新史料がある筈ですから面白いと思ひます。)中西交通史(張星烺)、中國古代地理沿革史(顧頡剛)、中亞民族史(聶金鈴)、秦漢史、隋唐五代史、殷周史料考定、先秦文化史、周秦民族與思想、滿洲開國史、此等の中、勿論必修と選修とあります。

(十月廿日)

補遺

傅增湘氏は目下國聞週報に「藏園群書題記」の下に每號書籍の解題をされ、私共は大いに益を受けてゐます。

瑞洵老先生は元の順帝の子孫で、十六歳で舉人となり、二十三四歳で進士になつた學者で、詩文は巧みで私共は大いに啓發されました。

江翰氏、叔海と號し福建長汀の人、故宮圖書館館長になつたことあり、今年七十八歳、愼所立齋稿、北遊集、東遊集、詩經四家異文考一卷、論孟講義一卷等の著あり、王樹枏氏、晋卿と號し、河北新城の人今年八十四歳、陶廬百篇四卷、故宮文存四卷、天元草五卷、文莫室詩八卷、陶廬文集十二卷、北異縣志二十卷等幾多の著述があります。

謝國楨氏、此の前に申し上げた晚明史籍考、清開國史料考、明

清之際黨社運動考の外、清初史料四種の著があります。これは民國二十二年七月北平圖書館から刊印されたものですが、之より先、氏は清初史料五種を輯め、商務印書館に付託し、刊印しようとしたのですが、上海事變の爲これ等は燒燬したのです。そこで再び史料を輯めることになつたのですが、然し五種の中の遼事志略の原本を得ることが出來ない爲已むを得ず、撫安東夷記、東夷考略、遼夷略の四種を輯め、氏の清開國史料考敍論訂補篇一卷を附し、清初史料四種として世に公けにされる事になつたのです。

蕭一山氏、蕭一山氏は清代通史を著はし世に知られてゐる少壯の清史研究家ですが、先日北平の中華印書局から清代通史卷下講稿辨論集を公けにしました。蕭君は稻葉君山博士の清朝全史に刺戟され、大いに發奮して清代通史を著はす事になつたのです。本書に於て未だ下卷完結しない理由を述べてをります。又過日陳恭祿、蕭一山兩君は大公報紙上に於て清氏通史の事に關し大論爭いたしましたが、それらの議論も本書に收錄されてゐます。

燕京學報專號目錄

一、中國明器　鄭德坤、沈維鈞合著
二、唐代長安與西域文明　向達著
三、明史纂修考　李晉華著
四、嘉靖禦倭江浙主客軍考　黎光明著
五、遼史源流考與遼史初校　馮家昇著
六、明代倭寇考略　陳懋恒著
七、明史佛郎機呂宋和蘭意大里亞四傳注釋　張維華著

（十一月十九日）

拜啓、其後愈々御健勝の御事と拜察いたしてをります。小生度々北京事情御報告申上げましたが、寡聞の上、充分推敲に推敲を重ねて認めたものでありませんから、啻に文章が拙いばかりでなく內容も甚だ貧弱な點がある事と思ひます。否、誤謬なしと斷言する事が出來ません。御承知の通り學者は殆ど南方の人で、清楚な北京語を話す人はなく、皆南方語ですから實に聽きとり難いのです。假りに北京語でも充分理解する事の出來ぬ今日の小生としては無理はないのですが、一應お斷りしておきます。然し多くの學者に會ふ事が出來た丈けでも幸福だと云はなければならないでせう。何となれば小生の會つた學者の中日本人に中々會はない人がをりますから。來年はもう少し內容のある御報告を致す事が出來ることと思つてゐます。今年は甚だ物足りない御報告に終りましたが、何卒御赦し下さい。

本日徐鴻寶先生に招かれ門前の西洋料理店で晝飯を御馳走になりました。明史の大家である吳廷燮先生、北平圖書館の輿圖部主任王以中氏等が同席されました。徐先生が小生を吳先生に會はせる爲に此の宴會を開いて下さつたのです。徐先生の御好意に深く感謝しないわけにはゆきません。日を改めて吳先生の御宅を訪問し、種々質問する事にいたしました。今日出席された人々の御話に依り種々益を受けました。たとへば、孟森先生の御歲は未だ五十代と存じてをりましたが、聞くところに依ると六十以上だけれどまだ七十にはならないさうです。それから同先生は心史叢刊（商務印書館印行）の清朝前紀で知られるようになつたのださうです。ですから明清史と云つても清朝史に精通されてゐる人と云は

なければならないでせう。先日明史、殊に倭寇研究の第一人者、明清史の第一人者と先日申し上げましたならば訂正して下さい。清朝史は餘りしないのですから。兎に角氏は大先輩であるから黎光明の嘉靖禦倭江浙主客軍考――燕京學報專號之四――の敍文もかいたのでせうし、最近影印本として著はれた倭寇研究上の重要な典籍は、國學圖書館影印ですから當然柳氏が跋文をかゝなければならなかつたのでせう。然し私は柳氏の此方面の博識は今でも認めるものです）と申し上げた柳詒徵氏は元來文章家ださうです。

北京大學で上古史、中國畫史、中國政治制度史を講じてゐる錢穆氏は、燕京學報の第八期に「關於老子成書時代之一種考察」第七期に「劉向歆父子年譜」第十期に「周初地理考」第十一期に「周官著作時代考」、第十二期に「古三苗疆域考」等を發表してゐますが、上古史專攻の人でせう。

元史研究の陳垣氏を先日訪問いたしましたが不在のため會へませんでした。氏は柯劭忞、王國維兩先生なき今日、此の方面の權威です。最近中々活躍されてゐます。先日氏の元典章校補釋例が中央研究院歷史語言研究所から印行されました。氏は又元典章校補六卷、補闕文三卷、改訂表格を（民國二十年北京大學研究所國學門刊行）又今年二月中央研究院から元祕史譯音用字攷を印行してをります。その他二十史朔閏表、、燉煌劫餘錄、史諱擧例等の著があります。史諱擧例は燕京學報第四期に嘗て掲載されたものでありますが、去年單行本となつて著はれる事になりました。一讀し大いに益を受けました。氏のいふやうに、避諱學も亦史學の一補助科學でありませう。陳垣氏は援庵と號し、廣東新會の人、今年五十三、度々故宮圖書館長に上りました。今はたしか輔仁大學々長です。

先日清史稿に就いて一言いたしましたが、大公報の史地週刊で容庚氏が清史稿解禁議を論じてゐることを落しましたから附加へておきます。

朱希祖にはまだ纏つた著述がないさうです。私の知つてゐる範圍で申し上げますならば、氏は燕京學報（第十期）に「整理昇平署檔案記」、同じく燕京學報（第三期）に「明季史籍五種跋文」、國立北平圖書館栞（民國二十年）に「鈔校本明末忠烈紀實跋」を載せてゐます。これに依つても氏は清よりも明を主として研究してゐることがわかります。吳廷燮先生（七十歳）は清史館にをられた當時、本紀を修められたさうです。徐先生は、明史研究は重要なるにも拘はらず、その方面の研究者は少いが、近い中に若い人でその方面の研究者が出るでせうと云はれました。大公報の史地週刊で晩明「流寇」之社會背景を論じてゐる吳晗氏にお氣がおつきでせうが此の人は清華大學出身の明史專門の若い學徒ださうです。かの清代通史を著はした蕭一山氏も若き清史研究家です。謝さん今度小生を入れて明清史研究者の會食をしようと云つてをりました。

最近大公報は若き學徒を世に紹介する機關ともなつたやうです。圖書副刊、史地週刊を有する大公報は、學界に貢獻する寔に大きな存在と云はなければならないでせう。

今度北京大學潛社から史學論叢が創刊されました。これは北京大學一部の教授と學生との合同出版になつたものです。重要論文

も少くありません。參考に總目を列擧して見ませう。

錢穆教授――悼孫以悌（史學系三年生、學才ありながら海に投身自殺した人）

孟森教授――彭家屏收藏明季野史案

唐蘭教授――藁京新考

顧頡剛教授――五藏山經試探

あとは學生で、孫以悌の書法小史、圍棋小史、王樹民の畿服說成變考、胡厚宣の楚民族源於東方考、高去尋の殷商銅器之探討、楊向奎の「帝」字說、張政烺の獵碣考釋、楊向奎の評鄭振鐸「湯禱篇」等です。

その外史學の雜誌としては

史學年報　燕京大學歷史學會編、北平景山書店出版

史學　國立中央大學（南京）文學院史學系編輯

史地叢刊　北平師範大學史學會編、出版部發行

史地叢刊　上海大夏大學史地學會主編、現代書局發售　民國二十二年十一月創刊

國立中山大學文史研究所月刊　國立中山大學文史研究所編輯　民國二十二年一月創刊

現代史學月刊　國立中山大學史學研究會編輯兼發行　現代書局出售、民國二十一年十月創刊

廣學中山大學文史研究所輯刊　廣州國立中山大學研究所發行　民國二十年七月創刊

等があり悉く創刊以來日尙淺いものばかりです。其他故宮博物院文獻館編輯になる史料旬刊、南京中國史學會編輯の史學雜誌等も注意すべきものです、又燕京學報、金陵學報、武漢大學文哲季刊等にも史學に關する論文が揭載されますが、其の外中大季刊（北平中國大學編輯）、中大國學叢編（中國大學編輯兼發行）中法大學月刊（北平中法大學編輯部編）西南研究（中山大學西南研究會編輯民國二十一年二月創刊）河南大學文科季刊、淸華週刊、淸華學報、國學季刊、國立浙江大學季刊、厦大學報、齊大月刊、齊大季刊（共に山東齊魯大學編輯）輔仁學說（北平輔仁大學）嶺南學報（廣州私立嶺南大學編輯）等にも史學に關する論文が揭載されることもあるやうですが、此等の中には廢刊になつてゐるものがあるかもしれません。その外、禹貢といふ雜誌が北平禹貢學會から一月二度發行されてゐます。これは主として歷史地理の研究です。今年三月一日創刊され、九月までは確かに存續してゐます。一册十錢のパンフレット式のものです。（十月廿三日及び十一月卅日）

以上は在北平本塾豫科教授宮島貞亮氏より橋本教授並びに本誌編輯者宛の私信を取纏め發表したものである。編輯者に於て適宜取捨した點あり文責は全て當方に在る。